

妙泉陶房



「透光性磁器」の製造技術を独自に高め、九谷焼のイメージアップに貢献

石川県
加賀市伊切町ワ163-1

1975年(昭和50年)設立
0761-74-5471

代表
山本 篤

<http://www.kutani-tyoza.ne.jp>

原材料等を工夫し、透明性を高めた「透光性磁器」の製造技術を独自に高め、薄手で強度も備えた、白磁の美しい製品を開発。

透光性磁器の製造技術を高度化して作られた白磁は、より薄く、より白く

石川県工業試験場が開発した「透光性磁器」の製造技術を更に高度化し、薄手でより白磁の美しい製品を開発。この技術で作られた「大皿」が、平成12年、パリで開催されたメートル条約125周年記念として、我が国から「国際度量衡局」に贈呈された。また、同社の製品は宮内庁にも納入されている。

九谷焼産地の活性化・・・それはイメージアップと新たな販路開拓

この透光性磁器の製造技術を生かし、同社の創業者が理事長を務める加賀九谷陶磁器協同組合では、九谷焼の文字盤を持つ腕時計などの開発に取り組み、九谷焼のイメージアップや新しい販路の開拓による売り上げ増加に貢献している。

安心・安全で環境にやさしい製品

昔ながらの製造方法を守り続け、原材料の粘土は地元から産出された安全なものを使用しているが、リサイクルにも取組み資源の有効利用を徹底している。また、製造した製品に対しては、工業試験場に依頼して溶出鉛、溶出カドミウム試験などを実施し、製品の安全性を確認した上で出荷している。



贈呈された記念の大皿

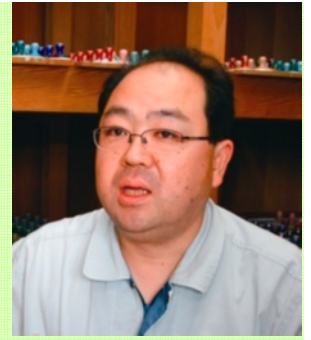


九谷焼の腕時計



自社製品

清峰堂 株式会社



代表取締役
清水 則徳

石川県
能美市新保町ヲ48

1975年(昭和50年)設立
0761-57-2133

<http://www.seihou-do.com/>

異素材接合技術開発が
生み出した新しい領域
「九谷和グラス」

不可能とされていた磁器とガラスの異素材接合に成功。これまでにない「和」の雰囲気を感じさせる「九谷和グラス」を提供。

九谷焼磁器とガラスのコラボレーション

「九谷和グラス」は、九谷焼磁器とガラスの完全な接合技術開発により完成した。これまでにない「和」の雰囲気を感じさせる。今まで九谷焼に馴染みの薄かった若年層が手に取るなど新たな市場が開拓されていると同時に、外食産業界からも注目されている。

安定した商品性能

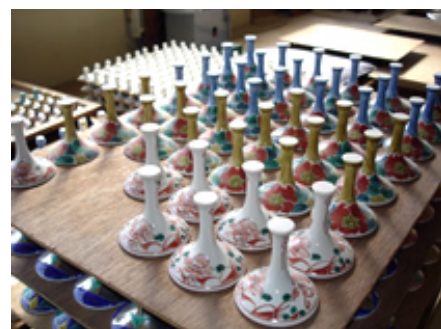
これまでも磁器とガラスの接合を試みたものはあったが、接合部分の強度が充分でなくそのほとんどが剥離していた。同社の「九谷和グラス」は、接合剤の調合や接合部分の研磨、温度・湿度管理など試行錯誤を行った結果、技術的な課題がクリアでき、実用的な食器として安心して提供できる製品となった。接合部の安定性が高く評価され2006年度グッドデザイン賞(新領域デザイン部門)受賞。

アイテムも充実、顧客ニーズにも細やかに対応

外食産業界等のニーズに対応するため、製品アイテム数を増やしている。(馬上グラス、デザートグラス、冷酒グラス、フリーグラス、ワイングラス、麦酒グラスなど全10種類)また、脚の絵付けについては、有名作家や職人と連携しているため、オリジナルグラス製作も可能である。



『九谷和グラス』の製品群



伝統技術で製造した「九谷和グラス」の台座部分

株式会社 羽田



代表取締役
羽田 好之

石川県
能美市火釜町123

1961年(昭和36年)設立
0761-51-3316

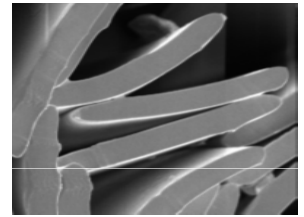
<http://www.hata-tex.co.jp>

超扁平糸で織った生地
を使用した婦人服を一
貫体制で製造・販売

ハリ・コシがあるのにドレープ（たるみ）があり、シルクのような光沢もある生地「フラット10（テン）」を開発。地元デザイナーとも連携し、生地づくりから製品の製造・販売まで一貫して行う体制を確立。

超扁平糸で織ったシルクライク生地「フラット10」

台湾の大手原糸メーカーと共同開発した超扁平糸を使用し、独自の撚糸加工を施して織り上げた生地「フラット10」を開発。従来の扁平糸の断面が4：1程度の縦横比だったのに対し、新開発の糸はその比率が10：1で、扁平率が大きいことから光が乱反射しやすくなり、シルクのような光沢がある仕上がりとなっている。光沢や風合いを調節することが可能で、しわになりにくく、家庭での洗濯もできるといった優れた特徴を有する生地である。



超扁平糸の断面写真

企画開発から製造・販売を一貫して行う体制（ミル・コンバーターシステム）を確立

昨今グローバル化が進む衣料業界において、市場ニーズへの早期対応を実現すべく、イタリアの繊維産地に見られる企画開発から製造・販売を一貫して行う体制（ミル・コンバーターシステム）を構築し、創業以来テキスタイル製造基地として培ってきた技術ノウハウを活かして高品質な製品を生産。賃加工体制から最終製品をイメージした付加価値の高い製品の直販体制へと産地構造の転換を推進している。

地元デザイナーと連携したオリジナルブランドを確立

地元デザイナーの協力によりライフスタイル全体を提案するオリジナルブランド「YUKI TAKASE」を立ち上げ、差別化素材を開発・製造しているテキスタイルメーカーならではの発想のもと、時代のニーズにあった新鮮でかつ高品位なものづくりを行い、金沢の女性が求める機能性や女性らしさを世界で唯一の形にして金沢独自の装いを提案するなど、地域繊維産業の活性化、イメージアップに貢献している。



YUKI TAKASE
ブランド

食品にも使える天然素材
から化粧品を開発
「安全・安心」の経営理
念で海外にも挑戦

株式会社 ルバンシュ

石川県
能美市旭台二丁目5番地3

1990年(平成2年)設立
0761-52-0455

<http://www.revanche.jp/>



代表取締役
千田 和弘

「食べられるくらい安全な化粧品」をコンセプトに、地元食材やオーガニック成分を使った化粧品の開発・製造・販売までを一貫して行う化粧品メーカー。「安全・安心」の経営理念で海外にも挑戦。

きっかけは素朴な疑問から

創業は1990年。食品会社の元研究員だった同社社長は「石油系の界面活性剤や酸化防止剤など、食品に使えない原料がなぜ化粧品に使えるのか。万一、赤ちゃんが母親の肌をなめたらどうなるのか」という素朴な疑問から「万が一、口に入っても安全」を経営理念の根幹に据えた。当時は化粧品原料として認可された食用成分の数は限られ、地方の中小企業が参入する壁は非常に高く、当時の社員は妻と姉2人のみ。裏通りの小さな工場で研究を重ね、持ち前のバイタリティで全国を駆け回り自らの信念をアピールし、取引先を開拓した。

飛躍はニンジンから

飛躍のきっかけは、2000年に発売したキャロット油など食用成分を使ったベジタブルリップクリーム。販売数は年間10万本を超し、代表商品の一つになった。2004年には北陸先端科学技術大学院大学に隣接する現在の敷地に本社を移転、工場には最新鋭のクリーンルームを備え、「大手にも決して負けない」という高い品質を実現した。現在は化粧品に使える食用成分の幅も広がり、通販会社や食品会社からのOEM依頼も増えた。



(ベジタブルカラーリップUV)



(ルバンシュ モイスチャークリーム)

柿の渋味で毛穴を引き締め

金沢大学、富山大、長崎大などと抽出方法などを共同研究して新成分「柿ポリフェノール」を開発。保湿はもちろん、渋味成分タンニンで同時に肌のきめを整える保湿クリーム「ルバンシュ・モイスチャークリーム」を製造。原材料には石川県産の「最勝柿」や富山県産の「三社柿」の地元食材を使ったほか、天然の植物性保湿成分のホホバオイルや有機栽培されたローズマリーなどを利用して肌に優しいクリームに仕上げた。通信販売を中心に売上げが伸びている。

世界に「安全・安心」を

次ににらむのは海外市場。2006年秋に既に上海の百貨店にコーナーを開設。台湾も視野にあり、2008年3月には現地の展示会へも参加。同社社長は「安全・安心の経営理念は世界に通じる。海外も潜在市場は大きいはず」と新たな挑戦に意欲をのぞかせている。